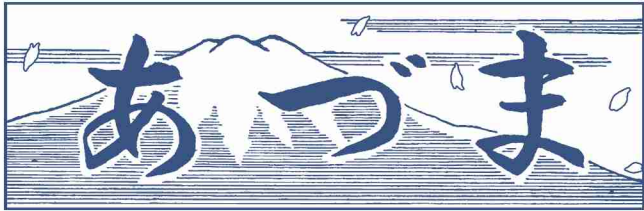


方面	第3次方面隊訓練検閲	(1面)
1師団	第1音楽隊 定期演奏会	(3面)
12旅団	第12音楽隊 定期演奏会	(4面)
1施設団	防災担当会議	(5面)
関東補処	陸曹候補生履修前教育	(5面)



令和6年4月25日 第1071号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙
発行所：方面総監部広報室
住所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

第2高射特科群
東部方面後方支援隊

首都防衛における防衛警備

訓練成果を評価・判定

方面隊は2月16日から3月8日までの間、東管内駐屯地、航空自衛隊入間基地、東富士演習場（市街地訓練場等）において、第2高射特科群及び東部方面後方支援隊に対する訓練検閲を実施した。訓練検閲開始に当たり、統裁官（幕僚副長（防衛））は、受閲部隊に対して「防衛警備任務の実効性向上に創意を尽くす」という意図を込めて、「作戦上の要求や部隊等二一に基つき、各々の専門識能を最大限発揮せよ」「安全管理、情報管理の徹底」の3点を要望した。

本検閲は作戦遂行能力の向上を図ることを目的として、重要影響事態から武力攻撃事態の作戦推移における防衛警備上の任務に基づく部隊の行動について検閲し、教育訓

練の成果を評価・判定するものである。

2高群は航空自衛隊及び師・旅団高射特科部隊等と協同連携した対空作戦を、後支援隊は関東補給処、各駐屯地業務隊等と連携した支援業務をそれぞれ実施した。

各部隊は部隊長を核として、これまで練成してきた成果を遺憾なく発揮するとともに、敵情・地形・気象を克服し、任務を遂行して本検閲を完了した。

方面隊は本検閲の成果を今後の教育訓練に反映させ、部隊のさらなる精進を図る。

関連⑥面



市街地における車両回収（後支隊）



地对空誘導弾の搭載（2高群）



夜間における車両回収（後支隊）



射撃準備（2高群）



車両の点検及び整備（後支隊）



警戒自衛戦闘（2高群）

方面総監部幕僚長 同幕僚副長（防衛） が着任

総監部は3月28日、朝霞駐屯地において転入者紹介行事を行った。

このたびの異動で第11旅団長から富崎隆志陸将補が総監部幕僚長兼朝霞駐屯地司令として着任した。



着任の挨拶を述べる濱田幕僚副長



着任の挨拶を述べる富崎幕僚長

東部方面総監部幕僚長
陸将補
富崎 隆志
生年月日 昭和43年3月21日生
出身地 山口県
学歴 法政大学

主要経歴
西部方面通信群長
陸上幕僚監部人事課課長
自衛隊大阪地方協力本部長
北部方面総監部幕僚副長
高等工科学校長
第11旅団長
(健軍) (市ヶ谷) (大阪) (札幌) (武山) (真駒内)

東部方面総監部幕僚副長（防衛）
陸将補
濱田 剛
生年月日 昭和43年7月7日生
出身地 大阪府
学歴 防衛大学校（第36期）

主要経歴
第44普通科連隊長
中央即応集団司令部防衛部長
第1空挺団副団長
第1師団司令部幕僚長
東北方面総監部防衛部長
第8師団副師団長
(福島) (座間) (習志野) (練馬) (仙台) (北熊本)

堺前幕僚長陸上総隊幕僚長へ 山下前幕僚副長勇退へ

総監部は3月27日、朝霞駐屯地において見送りの行事を行った。堺前幕僚長が、陸上総隊幕僚長へ転出、山下前

幕僚副長が退任した。堺前幕僚長、山下前幕僚副長は総監部全隊員に見送られ、総監部を後にした。



堺前幕僚長



山下前幕僚副長

方面狙撃競技会

1普連3中隊が優勝

方面隊は3月6日、東 度（東度）を維持・向上すると 富士演習場において、狙 度も、狙撃手希望者の拡 撃手・組に必要な狙撃練 大（狙撃への関心の向

上）を図ることを目的と して、令和5年度方面狙 撃競技会を実施した。競 技会の開始に当たり統裁 官（幕僚副長（防衛） は「狙撃精度の追求」「安 全管理の徹底」の2点を 要望した。

本競技会には36個狙撃 組（1師団18個組、12旅 団12個組、混成団6個組 （即自2人を含む）が 参加し、1回戦、準決 勝、決勝の3個ステージ による勝ち上がり方式で



射手と観測手による連携



悪天候の中、精密射撃をする狙撃組

方面隊に対する様々な活動に感謝 オピニオンリーダー感謝状贈呈式・継続委嘱状交付式

方面隊は3月22日、朝 霞駐屯地においてオピニ オンリーダー感謝状贈呈 式及び継続委嘱状交付式 を実施し、オピニオンリ ーダー活動を2任期全う したオピニオンリーダー

に感謝の意を表すると ともに、1任期を終了した オピニオンリーダーへ は、2任期目も引き続き 東部方面隊に対する支援 を要望した。

式の中で總監は、他方 面区研修、各種行事及び 審査員としてのZPPP IN！カップへの参加に 対し感謝を述べるとも 映、方面隊施策への助言 及びあらゆる手段を使っ た情報発信により、幅広 い協力者を獲得すること

を目的としており、活 動期間は1任期2年、最大 2任期4年間にわたる。 令和6年度は新たに13人 が加わり、合計47人がオ ピニオンリーダーとして 活躍する。



感謝状を贈呈する總監



感謝の意を述べる總監



式終了後の記念写真



開会式において敬礼を受ける統裁官



初弾必中の執念を込める射手



優勝した1普連3中 小笠2曹(左)渡邊3曹(右)

実施された。 各組は射手と観測手が 連携して、発見した目標 を迅速に評定し、初弾必 中の執念をもって精密な 狙撃を追求した。 各部隊は狙撃手・組と しての誇りと部隊の名誉

を賭け、勝利に向けてひ たむきに組み合った。 競技の結果は、第31普 通科連隊1組との接戦を 制した、第1普通科連隊 第3中隊が優勝した。 優勝した射手の小笠2 曹は「連隊・中隊の協力

のおかげで目標を達成す ることができた。優勝で きたのも、観測手の渡邊 3曹の正確な風読みと指 示があったからである。 今後も更に精進して連隊 の任務に貢献していく」 と話した。

方面射撃競技会 結果

優勝

第1普通科連隊 第3中隊
観測手 3曹 渡邊 修平
射手 2曹 小笠 大志

準優勝

第31普通科連隊 第1組
観測手 1曹 平田 勇
射手 2曹 塩崎 秀樹

第3位

第30普通科連隊 第3中隊
観測手 2曹 篠原 正和
射手 3曹 加納 俊太郎

第1普通科連隊 本部管理中隊
観測手 1曹 根岸 桂樹
射手 3曹 渡部 駿

広報センターイベント

高機動車に大興奮

陸上自衛隊広報センター は3月2日、高機動車体 験搭乗イベントを実施し、 来館者の陸上自衛隊への

関心と理解の促進を図る とともに、防衛基盤の育 成を図った。

本イベントでは体験搭 乗、体験喫 食、装備品 展示が行わ れた。第1 心地はよく、快適でした と笑顔で感想を話してい

また本イベントでは、 自衛隊東京地方協力本部 が募集コーナーを設置し、 募集情報を獲得した。

水たまりを走行する高機動車

普通科連隊 の支援を受 けた高機動 車体験搭乗 では高機動 車4両で駐 屯地内の周 遊コースを 走行した。 搭乗者に特



く、 さまざまなイベントを通 じて国民の自衛隊に対す る理解の促進を図ってい

第1師団

特別な思いで部隊に立つ 創隊70周年を迎えた1音の奏で

師団は創隊70周年を迎えた第1音楽隊の第48回定期演奏会を3月3日、文京シビックホールで開催した。1音は年度を通じて部内外・大小含め55回の演奏会を実施するとともに、その演奏技能の練度向上に努めてきた。今年度最後の演奏会は、その集大成として隊の演奏能力を最大限に発揮し得る高難度の楽曲、創隊70周年を記念し作曲された楽曲の初演に挑戦するなど、隊員は特別な思いを胸に舞台へ上がった。

1音は陸上自衛隊の前身である警察予備隊の音楽隊として1953年に第1管区音楽隊として発足以来、練馬駐屯地を拠点に東京をはじめ、埼玉・神奈川・千葉・茨木・山梨・静岡の1都6県を演奏担任区域とし、音楽演奏を行っている。また、東京オリンピックなどの国家的行事・被災地域での慰問演奏も行ってきた。

歴史と伝統を継承しつつ、地域に根差した1音の48回目となる定期演奏会では、70周年を迎えたことへの感謝を伝えるプログラム構成であった。

演奏会は冒頭、国歌「君が代」により、会場一体が愛国心に溢れる自衛隊音楽隊演奏会ならではの雰囲気醸成され、J・スタンブ作曲の「フアンファーレ・フォー・アン」により、

ア・ニューエラ」により軍楽隊らしく華やかに演奏の幕が開けた。

第一部では真島俊夫作曲「バード」アルト・サクソフォンのための協奏曲「が米玉利3曹（アルト・サクソフォン）ソロを交えて演奏され、会場をうっとりさせた。

続いて音楽隊の創隊70周年を記念し、作曲家の大澤徹訓氏（武蔵野音楽大学専任講師）により作曲された「ウィンドオーケストラのための3楽章」が初演された。

本曲は変奏曲とフーガによる楽章で、第1楽章冒頭のメロディー（主題）がいくつかのパートで追いかけるように繰り返し演奏され、メロディーが螺旋階段のようにうす高く登っていく力強い奏でと響きは、1音が今後も



伝統ある1音の第26代隊長 新田1尉の美しい指揮



ソロ演奏で会場を魅了する米玉利3曹



多くの観衆が耳を傾けた師団長による防衛講話



盛大な拍手で舞台に招かれる作曲家の大澤氏

壯大に飛躍していく情景を観客に想起させた。鳴りやまない拍手の中、舞台上で紹介された大澤氏には惜しめない盛大な拍手が送られ、第一部は閉幕した。

第二部の開幕に先立ち、師団長自ら舞台上上がり、来場者に防衛意識を高めてもらうために防衛講話を行った。引き続き第二部は、映画「ゴジラ」の作曲でも有名な伊福部昭作曲の「シンフォニア・タプカウラ」、緊急地震速報チャイム音のルーツとなった3楽章の和音でも有名なこの演奏では、適度な緊張感とインパクトを観客に与えらる。本演奏会のキーメッセージである「愛国心の醸成」、自分のできることで国に貢献しようというメッセージを観客に伝えた。

客席の聴衆者からは大きな拍手が贈られ、アンコールが沸きあがり、アンコールでは2024年で70周年を迎える映画「ゴジラ」の主題歌である伊福部昭「バンドのための「ゴジラ」ファンタジー」を演奏し、感動の熱が冷め止まぬうちに閉幕した。

師団の指揮・連絡の命脈を繋げ 部外通信を活用し必通の精神を具現

師団は2月14日から16日までの間、練馬駐屯地において、令和5年度第3回師団通信訓練を第一通信大隊長を担任官として実施した。

本訓練は師団通信組織及び各部隊のシステム通信構成能力の維持・向上を目的に、部外通信力のLTE回線、衛星回線及びDII基盤を活用した通信確保要領、映像伝送要領について演練した。

隊員は通信が指揮・連絡の命脈であり、総合戦力の発揮に必要不可欠であることを認識し、「正確・確実・迅速な通信構成」を具現すべく真剣に訓練に臨んだ。（写真）

訓練を終えた隊員は各部隊において各級指揮官の命令・号令を「必通」させる役割を担うとともに、本訓練で修得した技能を部隊に普及し、師団全体の通信能力を強化するための礎となる。

公開情報から目的情報を特定 師団初のオシント競技会



オシント (OSINT) とは？
オープン・ソース・インテリジェンス
Open Source INTeLLIGENCEの略語です。
一般に公開され利用可能な情報を情報源に、機密情報等を収集する情報活動の手法のことをいう。

師団は3月7日、練馬駐屯地において師団オシント競技会を実施した。

師団は今年度、3回にわたりサイバー空間情報（オシント）訓練を実施し、首都防衛における部隊運用に必要なインターネットを通じての情報収集要領を確立するとともに、各部隊からネットリテラシーの高い隊員を発掘して、師団全体の情報能力の強化を図ってきた。

全自衛隊でも初となる本競技会は、各部隊1個チーム（3人）によるオシントを活用した位置標定（座標の精度及び報告までの速度）を競い合う部隊対抗戦形式で行われ、今年度の訓練の成果を確認した。

各部隊から師団オシント訓練参加経験者、第2科（2係）の隊員が選抜され参加し、部外端末等を駆使し、チーム一丸となり位置の標定を行った。（写真）結果は第1後方支援隊が優勝を収めた。

師団は引き続きオシント訓練を実施し、首都機能維持のために必要なネットリテラシー能力向上を促進し、師団の情報収集処理の強化を図っていく。

【優勝】
1後方支援隊
▼梅田 一人 2等陸曹
▼荒金 薫 3等陸曹
▼星野 優人 陸士長

師団の誉 優秀隊員を表彰 隊員を支える家族に感謝

師団は2月26日、ホテルカデシヤ東京（練馬区）において、令和5年度師団優秀隊員招待行事を実施した。（写真）

本行事では職務遂行、教育訓練等で特に活躍し、師団の隊務運営に著しく貢献した隊員の功績を称えるとともに、隊員を支えてこられた家族に対して敬意と感謝の意を表すことを目的とし、優秀隊員及びその家族を招待して師団長から褒賞状の授与、記念撮影を行った。

師団優秀隊員は次のとおり

- 【第1普通科連隊】
▼川崎 大輔 陸曹長
- 【第32普通科連隊】
▼千尋 修 准陸尉 ▼諸田 純也 3等陸曹
- 【第34普通科連隊】
▼斎藤 貴典 陸曹長 ▼村山 貴彦 陸曹長
- 【第1後方支援隊】
▼早坂 雄介 陸曹長 ▼庄司 泰大 陸曹長
- 【第1偵察戦闘大隊】
▼小高 望 1等陸曹
- 【第1師団司令部付隊】
▼成田 信昭 陸曹長
- 【第1音楽隊】
▼西上 正道 准陸尉

令和5年度 師団優秀隊員招待行事



第12旅団

重厚な響きで聴衆を魅了

第58回旅団定期演奏会開催

旅団は3月3日、高崎芸術劇場において、陸上自衛隊第12旅団第58回定期演奏会を実施した。

演奏会は第12音楽隊の演奏技術の向上を図るとともに、自衛隊への信頼感及び防衛基盤の醸成に寄与することを目的として2部構成で行われた。

第一部は「エブリデイ・ヒーロー」で演奏会の幕を開け、「サクソフオン協奏曲」「さくららのうた」「ドラゴンの年」を披露した。なお2曲目では、住谷士長が見事なサクソフオン独奏を披露した。サクソフオン協奏曲演奏終了後、会場から住谷士長に拍手が送られてくる中、舞台端から同じサクソフオンパートの佐々木2曹が「ハッピー

バスデー」を吹奏しながら登場。司会者から「今日は住谷士長21歳の誕生日です」と紹介されると、会場から更に盛大な拍手が送られ、会場全員で「ハッピーバスデー」を合唱して、祝福される一幕があった。無事に演奏を終え、緊張から開放された安堵の中、サプライズ演出を受けた

住谷士長の表情に注目が集まった。

第二部は「11人のカウボーイ」「千と千尋の神隠し」の映画音楽に続き、音楽隊の歌姫藤嶽3曹が歌謡曲「Chessboard」で歌声を披露。最後に交響曲第9番「新世界より」第2楽章及び第4楽章を演奏し、重厚な響きで聴衆を魅了した。

アンコールとして再び藤嶽3曹が登場し、YOSOBIOの「祝福」を熱唱。最後に「宇宙大戦争」で締めくくった。

演奏会終了後、聴衆者からは「迫力ある演奏に感動しました」などの声が聞かれ、演奏会は大盛況のうちに幕を閉じた。

第1位 高田2普連A (竹内3曹、桑原3曹)
男子4・5kmスプリント (一般銃)
第1位 宮尾2曹
第2位 今村3曹
第5位 桑原3曹
第6位 太田3曹
男子4×4・5kmリレー (一般銃)
優勝 高田2普連 (太田3曹、宮尾2曹、桑原3曹、今村3曹)



ほぼ満席となった高崎芸術劇場大ホール



「祝福」を熱唱する藤嶽3曹



サクソフオン独奏する住谷士長



垂直の水壁に挑む隊員

13普連

八ヶ岳連峰で氷壁登はん訓練

山岳レンジャー練成訓練(積雪期)

第13普通科連隊は1月10日から2月14日までの間、松本駐屯地、乗鞍地域、八ヶ岳連峰及び大町総合山岳センターにおいて、令和5年度山岳レンジャー練成訓練(積雪期)を実施し、冬季における連隊の任務遂行能力(災害派遣任務遂行能力を含む)を向上させた。

本訓練は第1中隊長を担任官とし、22人のレンジャー隊員が参加し、山岳機動、救助、宿営、口

訓練を行った。

訓練に参加した第3中隊の山口3曹は「練成訓練は初参加で、夏の山地技術と違い、厳しい冬季の山岳機動は、求められる技術が多くて苦戦した。特に山地総合の水壁登はん訓練では、学んだことを生かして無事に踏破することができた。今後もレンジャー練成訓練に参加して自身のレベルアップとその技術を普及していきたい」と語った。



レースをけん引するゼッケン1番の太田3曹(宮様スキー大会)

2普連

2大会で存在感を見せ付ける

宮様スキー大会は2連覇

第2普通科連隊は2月25日から3月3日までの間、北海道札幌市西岡バリエーション競技場において実施された「第60回バリエーション日本選手権大会」及び「第95回宮様スキー大会国際競技会バリエーション競技」に、監督太田1曹以下、コーチ3人及び選手5人が参加した。

本バリエーション競技は1周1・5kmのコースを3周する間に、50m先にある5つの的に対して伏せ撃ち・立ち撃ちをそれぞれ行い、規定弾数内で全ての的に命中できなければ入賞。

【第60回バリエーション日本選手権大会(参加14チーム)】
男子4・5kmチームコンペティション(一般銃)
第1位 太田3曹

【第95回宮様スキー大会国際競技会バリエーション競技(参加13チーム)】
男子4・5kmリレー(一般銃)
優勝 高田2普連 (太田3曹、宮尾2曹、桑原3曹、今村3曹)

幕僚長に河村1佐が着任



冷たい風が吹き、寒の戻りとなった3月18日、第12代司令部幕僚長に第6即応機動連隊長(美幌駐屯地)から河村友則1等陸佐が着任した。

相馬原駐屯地に到着した河村1佐は、司令部庁舎前において司令部課長官らを出迎えを受けて、家族の大切さや、悩みへの対応など家庭・仕事を両立できる環境を目指すことを伝えた。(写真)

なお3月18日付で前司令部幕僚長 栗木1佐は西方特科隊副隊長として栄転した。

第1施設団

防災担当者会議を開催

自治体との連携を強化

施設団は2月21日、令和5年度第2回古河・霞ヶ浦分区分区防災担当者会議を開催した。本会議には、施設団が担任する茨城県内17市町の防災担当者25人及び担任部隊担当者が参加し、災害への対応に関する事項について認識の共有を図るとともに、自衛隊装備品の研修・体験、意見交換を通じて、自治体と自衛隊の連携強化を図った。

への対応能力及び最新の災害派遣の状況等について説明するとともに、自治体から防災態勢及び取り組みについて情報提供を受けた。また自衛隊装備品の研修では、野外炊事車による自隊炊事等を研修するのと同時に、自隊炊事献立での会食の場で意見交換を実施した。また装備品体験として、渡河ボートの体験乗船及び92式浮橋の研修を実施した。限られた時間ではあつ

たものの、各自治体防災担当者から自衛隊の災害派遣活動に対し、理解をいただくとともに、顔の見える良好な関係を構築して、自治体と自衛隊の連携を強化なものにした。



古河・霞ヶ浦分区分区防災担当者会議(担任部隊長挨拶)



渡河ボートの体験乗船



野外炊事車の展示・研修



和やかな雰囲気にもまれた会食



フォローアップ募集中
おま (EB) (X)



多くの意見が飛び交った会同



意見を出し合う女性自衛官

令和6年度は古河駐屯地創設70周年の大きな節目を迎えます!

古河駐屯地は3月4日、駐屯地司令と女性隊員等による懇談を実施した。本会同には、駐屯地に所在する各部隊の女性代表が集まり、女性活躍を推進するための勤務・生活環境の改善や、隊員相互に相談できる関係構築等について意見を交換した。当初緊張の色が見られた参加者も徐々に打ち解け、和気あいあいとした雰囲気の中で、多くの貴重な意見を得られ会同を終了した。

駐屯地女性会同実施

さらなる女性活躍推進を目指して



催涙球の投てきをする隊員

朝日燃料支処は3月4日・5日の両日、朝日分屯地及び七会訓練場において警備訓練を実施した。本訓練は本処総務部からも要員が参加し、催涙球の取扱い要領及び投てき要領を主要演習項目として行われた。4日に化学部による催涙球の取扱い教育が、5日には七会訓練場において、催涙球投てき訓練が行われた。訓練参加者は、実際の催涙球をもって取扱い投てき要領を体得し警備能力をさらに向上させた。

警備訓練で催涙球投てきさらに対処能力向上



初めての障害走に挑む隊員



囲壁(障害走の壁)を越えていく陸曹候補生



同期と連携し突撃を開始

関東処は3月4日から22日までの間、霞ヶ浦駐屯地等において第145期及び第105期陸曹候補生課程履修前教育を実施した。本教育は陸曹候補生課程入校予定者に対し、候補生としての資質と必要な共通の識能、そして基礎体力を充実させ、入校準備に万全を期することを目的としている。本処、各支処等及び駐屯部隊から教育に参加した7人の陸曹候補生は、座学や戦闘訓練等を通して必要な知識・技能の向上を図った。教育中盤に差しかかる障害走及び戦闘訓練等、障害走及び戦闘訓練等の実践的な訓練が開始され、陸曹候補生は互いに切磋琢磨しつつも一致団結し、困難な各障害課題を克服して、日々成長するとともに同期の絆を深めていった。今教育でたくましく成長した候補生連の陸曹候補生課程での躍進及び陸曹昇任後の活躍を期待する。

関東補給処

陸曹への第一歩

団結し困難に挑む

吉井支所

弾薬交付の実効性向上

吉井弾薬支処は2月26日から3月1日までの間、吉井分屯地及びその周辺地域において、東部方面隊が実施する初度携行弾薬交付・受領訓練に合わせた連携要領を演習することにより、部隊の即応性向上に寄与するとともに、支処として交付能力を向上した。



受領部隊と調整する支処隊員(左)



最終確認と弾薬確認をする支処隊員(左)

駐屯地消防訓練を実施 消火能力の向上を図る

霞ヶ浦駐屯地は3月1日、駐屯地において消防訓練を実施した。本訓練は、消防活動能力の向上及び防火・防災意識の高揚を目的として、避難訓練、消防教育及び消火訓練が行われた。



消火活動を行う隊員

訓練参加者は消火訓練において、関東処総務部警備課消防班による火災発生時における消火組織の編成、各種消火設備等を利用した消火行動及び消火後の現場保存までの一連の消火活動の展示を確認し、消火活動の要領を把握するとともに、消火器及び屋外消火栓による消火要領を演習することにより消火活動能力を向上させた。



長尺物を運搬する隊員

古河支処フォークリフト競技会

古河支処は2月28日・29日の両日、古河駐屯地においてフォークリフト競技会を実施した。フォークリフト有資格者の練度判定及び練度の維持・向上が目的である本競技会では、大会前に練成期間が設定され、参加者は本番を目標に練習を重ねた。競技会は隘路走行、重量物及び長尺物運搬等の困難な課題を有するコースで行われた。競技参加者は日頃の業務及び練成期間で培った技術を遺憾なく発揮し、安全・確実かつ迅速なフォークリフト操縦に努めており、本競技会の目的を達成した。



隊容検査において防護マスクの装面要領を確認



防衛出動時における車両回収

後支隊 首都防衛作戦の任務を完遂 第3次方面隊訓練検閲

東部方面後方支援隊は2月28日から3月3日までの間、首都防衛における防衛警備上の任務に基づく部隊の行動を訓練課目として、朝霞駐屯地、霞ヶ浦駐屯地及び富士駐屯地を拠点に、方面訓練検閲を受閲した。

隊長要望事項「兵站支援に関する方面隊最後の砦として、あらゆる任務を創意を凝らして完遂せよ」の下、隊長を核として、一致団結して本検



急激な状況の推移に対応する指揮所

一人一人が任務遂行に必要な練度向上を図り、万全の態勢で検閲に臨み、急激に状況が推移する

中、各駐屯地で発生する補給、整備、回収、輸送支援及び不発弾処理等の兵站業務をさまざまな状況下において実施し、支援任務を完遂した。



戦闘訓練の準備教育をする教育者



緊張した面持ちで受け付けをする新入隊員

第117教育大隊は3月25日、武山駐屯地に於いて「第22期一般陸曹候補生課程(前期)」の入隊予定者約670人を受け入れた。

混成団 準備教育で万全を期す 令和6年度新隊員教育を始動

新入隊員は身体検査宣誓、被服受領等、自衛隊生活の準備を進めつつ、入隊式に向けて基本教練等を訓練し、新入隊員らしい澁淵とした姿を披露できるよう訓練した。

立川駐屯地 ハーフマラソン出場選手 春の立川飛行場を疾走



滑走路を一斉にスタートする選手

立川駐屯地は3月10日、立川シティハーフマラソン2024を支援した。主に滑走路をはじめ施設使用等の支援を実施し、円滑な大会運営に寄与した。

ハーフの部に出場した選手らは滑走路をスタート、駐屯地内を約5.5km走行し、正門を通過して市街を走り、昭和記念公園内でゴール(21.0975km)した。その他10kmの部も駐屯地南道路からスタートした。約5500人(ハーフ参加者)の選手が普段は立入ることのできない滑走路



昭和記念公園通用門からの入場支援をする隊員

等を駆け抜けた。また今大会には佐藤駐屯地司令以下多くの隊員が参加、好天に恵まれ一般の方とマラソンを楽しむ

駐屯地は大会支援を通して、競技参加者を含む周辺地域住民の立川駐屯地に対する理解を促進した。

特科連隊 全自衛隊拳法選手権大会 女子個人で健闘 第3位



3位入賞の池田3曹(左)と敢闘賞の倉林1士(右)

東部方面特科連隊は3月9日から10日までの間、航空自衛隊入間基地において開催された防衛大臣杯第39回全自衛隊

拳法選手権大会に参加した。本大会に向けて北富士及び宇都宮駐屯地からそれぞれ選手要員が選抜さ



ONE TEAMで戦った連隊チーム

共に練成に励み、「ONE TEAM」となり一定の成果を収めることができた。これからも引き続き一丸となって精進していく」と語り、今後の更なる飛躍を誓った。

第4回連隊拳法合同訓練を実施し、着実に練度を向上させるとともに、闘争心及び団結を強化し、本大会に挑んだ。

大会初日の男子団体戦は接戦を強いられる中、第41普通科連隊に対して力戦奮闘するも力及ばず敢闘、目標である入賞を果たせなかった。翌日

の女子個人戦には9人の隊員(参加総数38人)が出場、第2大隊池田3曹は順調に勝ち進むも準決勝で惜しくも敗れ第3位入賞、倉林1士が敢闘賞を受賞した。

監督を務めた第1大隊長谷川2尉は「連隊新編から1年が経過、これまで駐屯地の垣根を越えて

静岡地本 入隊入校予定者を激励

らっぱ吹奏で祝福

静岡募集案内所及び清水募集案内所は2月23日、静岡市ふれあいホールにおいて行われた静岡市入隊入校激励会を支援した。

これは今春、同市から



34普連らっぱ隊による吹奏

静岡募集案内所及び清水募集案内所は2月23日、静岡市ふれあいホールにおいて行われた静岡市入隊入校激励会を支援した。これは今春、同市から

た家族や学校の恩師、担当広報官に感謝を伝えた。続いて行われた第2部では、第34普通科連隊らっぱ隊がらっぱ吹奏を披露した。迷彩服姿の4人の隊員が個人や合同吹奏で迫力ある音を響かせ、入隊入校予定者の新たな門出を祝福した。

新潟地本 デザイントラックでPR

自衛官募集に期待



完成したデザイントラックの前で記念撮影

自衛隊新潟地方協力本部は3月12日、自衛官募集広告デザイントラックの披露式を行った。

これは新潟県自衛隊援護協力会から「県内外を走るトラックで自衛官募集や自衛隊への親しみを深めてはいかか」との申し出を受けて実現したものである。

静岡所及び清水所は、今後も入隊入校予定者の不安払拭を図るとともに、家族へのサポートを行うっていく。

当日は、新潟地本、新潟県自衛隊援護協力会及び新潟デザイン専門学校の新生徒らが参列し、デザイントラックが披露されると参列者から大きな歓声が上がった。またデザインを制作した学生は、デザイントラックと笑顔で記念撮影を楽しんでいた。

新潟地本は今後も、企業や学校等と協力して様々な形で自衛隊をアピールして自衛官募集に繋げる所存である。

神奈川地本 部活動応援企画ジョイトレ

防衛大学校をアピール

自衛隊神奈川地方協力本部相模原地域事務所は3月17日、防衛大学校サッカー部の支援を受け、高校生の部活動応援企画「ジョイトレ」を実施した。

ジョイトレは自衛隊のクラブ活動との合同練習を通じて隊員と触れ合うことで、自衛隊という職業に対する認識及び理解を深め、防衛基盤の拡充を図ることを目的とした取り組みである。

参加生徒からは「今回のような機会がないと防衛大学校について知ることがないのが良い機会でした。興味が湧き、進路の参考にしたい」「充実した施設で学業や訓練に専念できる環境がすごい」「明確な志を持った防大生が多かったため、自分もやりたいことを見つけ、将来の夢を探したいと思った」等の声を聞くことができた。防大や自衛

訓練所感

東部方面システム通信群 第304中樞交換通信中隊 1等陸士 小柳 早



らっぱ集合教育に参加して

私はらっぱ集合教育を通じて、2点成長しました。

1つ目は教育を受ける学生としての責任感です。部隊の代表として教育に参加させて頂き、挨拶、端正な服装等を確実に実施し、特技を必ず取得すること

2つ目は、人間性を高めることができたことです。教育参加以前は人前に立つこと、意見を述べるのが不得意でしたが、教育期間中は同じ教育を受ける仲間として、学生長を通じて全体の技術向上のための意見を伝え、また同期達と協力する能力、先頭に立つて発言する能力を身に付けることができました。振り返ると短い2カ月でしたが、確実にラッパの技術を習得することができ、また、自衛官としての責任感、人間性を高める等、貴重な経験をすることができました。今後も集合教育での経験を大切に精進します。

群馬地本 災害派遣活動を写真展示

自衛隊への理解と防災意識の向上

前橋募集案内所は1月16日から3月下旬の間、所において自衛隊災害派遣活動写真展示を実施した。



説明をする前橋募集案内所所長

会場には能登半島地震、東日本大震災及び熊本地震による災害派遣活動写真や災害派遣時に用いていた装備品の写真を展示し、来場者からは「自衛隊の活動に感謝」「予備自衛官補制度を初めて知ったので検討したい」「また、学生からは「進路の一つとして自衛隊を考えたい」などの声があった。

そして伊勢崎市長が来場した際は、自身のブログにて「自衛隊員の献身的な活動に敬意を表す。防災、災害対応にしっかりと取り組んでゆく決意を新たに」と投稿した。また渋川市長も定例記者会見において「能登半島地震で被害に遭われた人々への支援を考慮する機会とするため、被災地で活動している自衛隊や、現地へ派遣された渋川広域消防本部・渋川市職員の活動の様子を伝える写真展示会開催」と発表した。

前橋募集案内所は引き続き各自治体と連携して、写真展示等による災害派遣活動状況の紹介などを行っていく。

栃木地本 高校で防災教育

意識の高揚を図る

大田原地域事務所は3月21日、馬頭高校において行われた防災教育を支援した。



災害派遣活動についての教育

防災教育では大規模災害における被害や自衛隊災害派遣について、教育を受けた生徒の中には「1年生の頃から、この教育を楽しみにしていた。緊急時自分には何ができるかイメージが湧いた」と話す生徒もいた。

練習後の集合写真

最先任 上級曹長

「コミュニケーションの重要性」 第2高射特科群 尾形 賢一 准陸尉



令和5年3月13日付で第2高射特科群第7代最先任上級曹長に上番した尾形准尉です。第2高射特科群は昭和31年に創設し、昭和42年に中距離地对空誘導弾の基本ホークが米軍から供与されて以来、改良ホークI型、II型、III型と急加速に変化した器材換装が行われま

した。この変化に対し、群の隊員(諸先輩方)はダーウィンの進化論にあるように、「変化に対応した者が生き残る。」まさに、急激に変化し、複雑かつ、高度に電子化された器材に見事に対応し、日本一の高射部隊を築き上げてこられました。この変化に03式中距離地对空誘導弾(通称中SAMM)という純国産の優れた能力を持った新装備が現れ、群は平成19年から順次装備化し、群にとっても中SAMMの導入は大きな変化となり、若手隊員が活躍できる器材換装となりました。

私が最先任上級曹長に上番してから常に考えていることの一つに「コミュニケーションの重要性」があります。隊員相互の信頼関係であり、隊員に対し「情愛」を伝えることが必要だと感じます。特に最近の若年隊員にみられるコミュニケーションの悪化、個人としての透徹した使命感と責任感の堅持、部隊としては団結の強化、厳正な規律の維持、士気の高揚が求め

られます。指導者として重要なことは隊員相互の信頼関係であり、隊員に対し「情愛」を伝えることが必要だと感じます。特に最近の若年隊員にみられるコミュニケーションの悪化、個人としての透徹した使命感と責任感の堅持、部隊としては団結の強化、厳正な規律の維持、士気の高揚が求めら



「娘は五輪で金を目指す 世界チャンピオン」 第32普通科連隊 鏡 師博 1等陸曹



私のモットーは「謙虚さ」ですが、今日は紙面を借りて娘の優翔(ゆうか)を自慢させてください。私の娘は現在、サントリーに所属しながら母校の帝京大学においてパ

環境は大きく変化し、入隊してからの隊員の気質も変化しています。指導の本質は不変です。指導する側の隊員は自分が指導する隊員を我が子と見做し、愛情と情熱を注ぎ、血の通った指導をしなければならぬと思います。

「飛翔」 第12通信隊 木村 志穂 陸士長

今月のフェアレディは、第12通信隊の木村士長です。木村士長は埼玉県所沢市出身の33歳で、入隊前は映像制作関連の仕事をしていたが、そのスキルを活かすべく陸上自衛隊へ入隊し、写真班で勤務をしています。



思いがあり、前職で映像関係の仕事をしてきたのでその実力を陸上自衛隊で役立てたいと思ったから。

Q2・現在の職務は？
写真及び映像の撮影、編集作業を行っています。二スに基づいた写真映像を提供できたときの満足感があります。

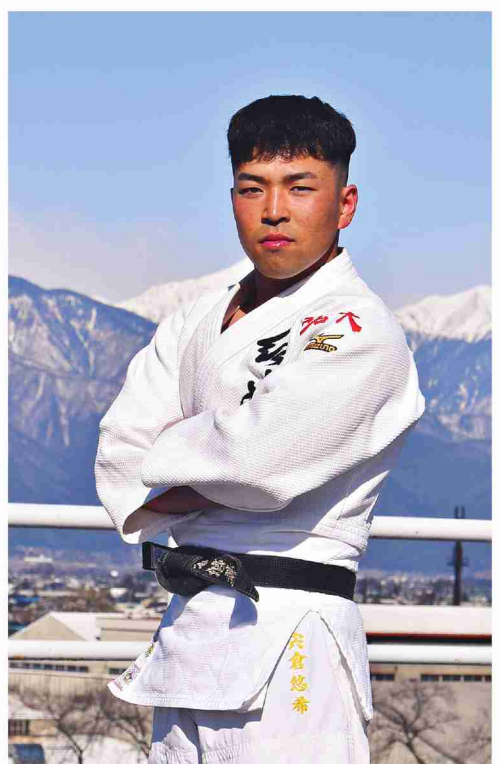
Q3・休日の過ごし方は？
映画鑑賞やピアノを演奏しています。父親の影響で音楽が好きになり、趣味のピアノを弾きながら曲作りをしています。

Q4・今後の目標は？
陸曹となり英語課程に入校して語学力を高め、日米共同演習など訓練で活躍したいです。

Q5・業務を行うときに心がけていることは？
相手の立場になって物事を考える。周りに気を配り率先して行動すること。

Q6・最後に一言
30歳を超えても新しくチャレンジしていける場所が自衛隊だと思えるので、年齢にとらわれないで、挑戦し続けて羽ばたけるような自衛隊生活を送りたいです。

東方男児 「日々練磨」 第306施設隊 宍倉 悠希 陸士長



今月の東方男児は、第306施設隊(松本駐屯地)の宍倉士長です。宍倉士長は、平成31年入隊の23歳、千葉県出身で

Q1 入隊の動機は何ですか？
入隊の動機は、幼いころから柔道をしてきたこととあり、気力・体力には自信もあったので、陸上自衛隊への入隊を決めました。

Q2 これまでで最も思い出深い訓練は何ですか？
大日原演習場にて受閲した団訓練検閲です。理由は、長時間に渡る攻撃行動で、次々と損耗を受ける中、分隊長を筆頭に鼓舞し合い一丸となって任務を遂行したからです。

Q3 「自身のモットーと毎日の任務において心がけていることは何ですか？
モットーは「現状維持は衰退である」です。心掛けていることは、視野を広く持ち、先を見据えた行動をすることです。

Q4 趣味は何でしょうか？
趣味は何かとなく、何かと興味をもちたいです。

Q5 今後の自衛隊人生でチャレンジしたいことはありますか？
「レンジャー」の特技を取得することです。理由は、お世話になった方がレンジャーを取り、とても感化を受けたのと、何より自分の実力を試したいからです。

Q6 最後に一言
松本駐屯地、第306施設隊は最高です！

編集後記

しあわせ八変化
自分が変われば 相手が変わる
心が変われば 言葉が変わる
言葉が変われば 態度が変わる
態度が変われば 習慣が変わる
習慣が変われば 運が変わる
運が変われば 人生が変わる
いま幸せな人はそのままいいです